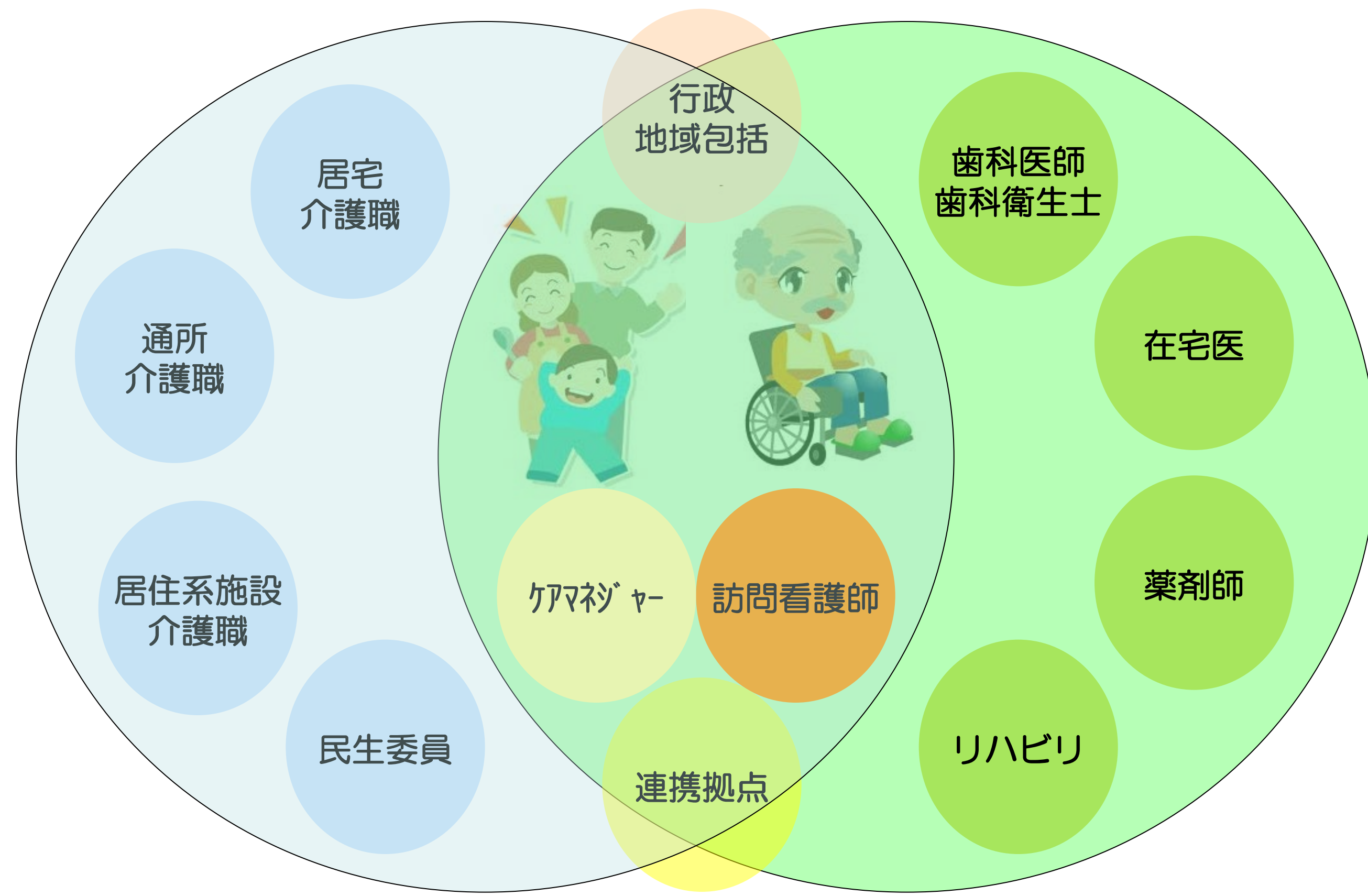


「医療と介護の連携を深めるための基礎知識講習会」開催とその意義

○友松郁子 1)
 中里和弘 1)、2)
 片山史絵 1)
 丹野直子 1)
 川越正平 1)
 あおぞら診療所 1)、東京都健康長寿医療センター研究所 2)

背景 在宅医療を推進する上で求められていること

- ・医療と介護の連携強化
- ・認知症や医療ニーズが高い居住系施設利用者への対応
- ・居住系施設での看取り



目的

- ・医療と介護に関する知識を医療職と介護職双方で共有
- ・他施設の介護職との経験の共有
- ・施設を超えた同（他）職種と交流
- ・地域の看護師に相談できる関係作り

対象者

千葉県松戸市内の居住系施設介護職並びに福祉職

その他の参加者

民生委員、ファシリテーター（医師、訪問看護師）

参加者の所属	人数
所属事業所	
居宅介護支援事業所	20
特別養護老人ホーム	5
グループホーム	9
有料老人ホーム	3
通所介護事業所	8
訪問介護事業所	10
その他	4
合計	59

参加者の職種（複数回答）	人数
職種	
ケアマネジャー	25
ヘルパー	4
介護福祉士	23
社会福祉士	2
看護師等	2
その他	12
合計	68

講習会で取り上げた3つのテーマ

- ①認知症の基本的理解
- ②介護現場における医療ニーズ
- ③老衰と看取り

講習会プログラム構成のキーポイント

- ・各講義（50分）の後にグループディスカッション（30分）



講義（50分）



グループディスカッション（30分）
1グループ6～7名で構成

- ・これらをテーマごとに3回繰り返す

- ・最後に全体で議論のポイントを共有する
- ・懇親会で、さらに情報交換をする



全体共有（30分）

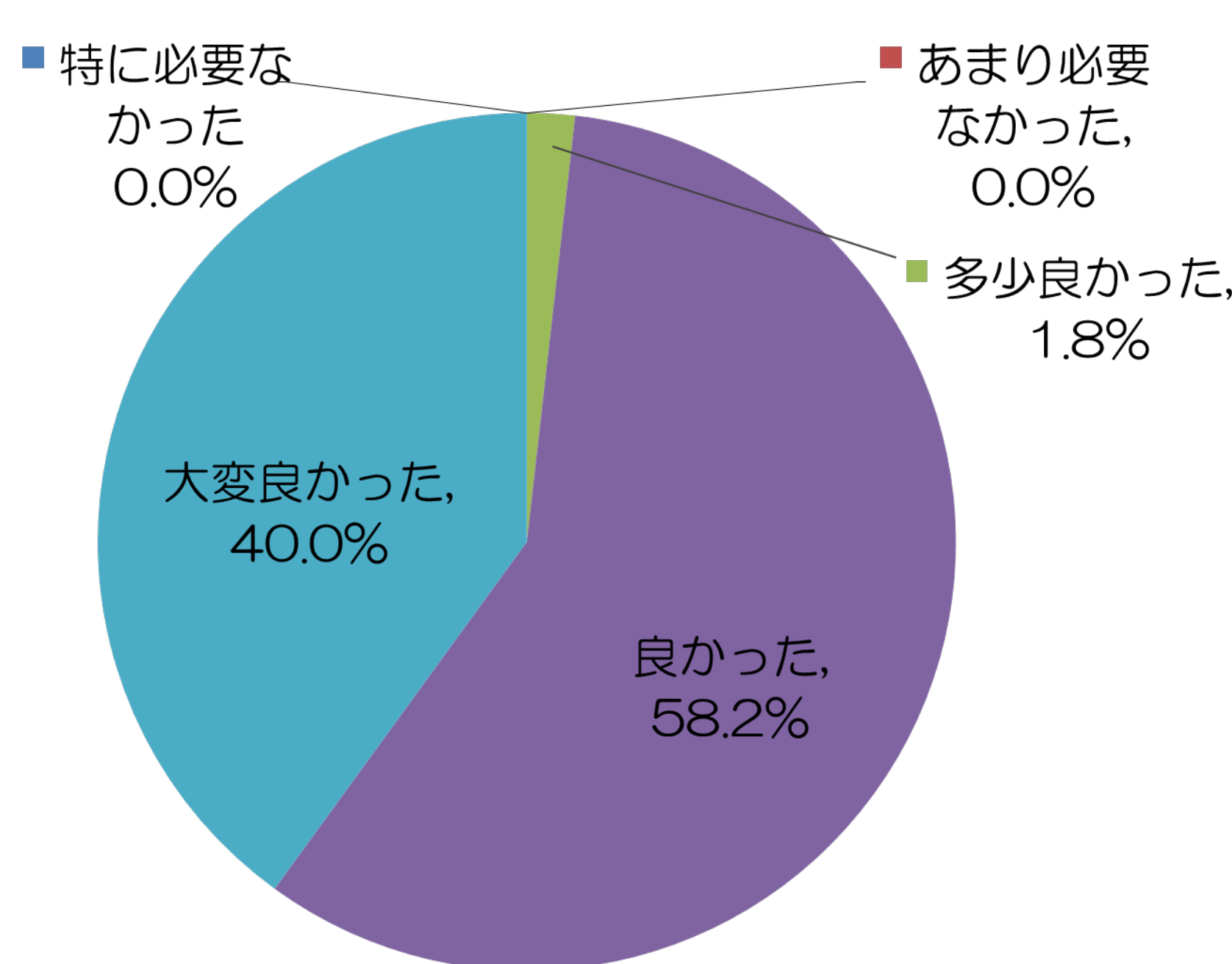


懇親会（60分）

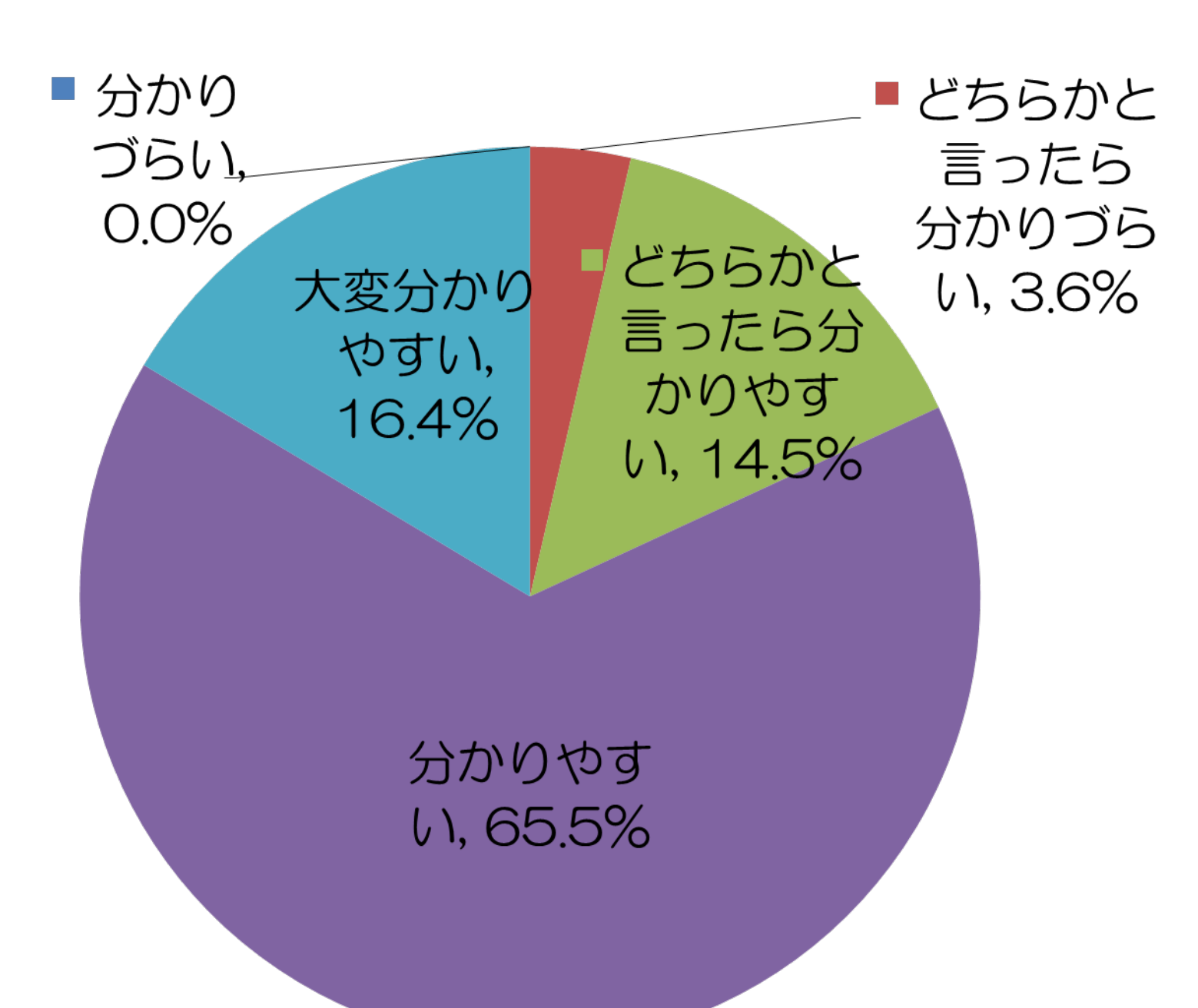
講習会に対する評価 アンケート結果

講義の難易度	（%）		
「講義」の内容は	講義1	講義2	講義3
1. 易しかった	10.7	13.5	10.0
2. どちらかと言ったら易しかった	16.1	23.1	14.0
3. 適当だった	69.6	63.5	70.0
4. どちらかと言ったら難しかった	3.6	0.0	4.0
5. 難しかった	0.0	0.0	2.0
合計	100	100	100

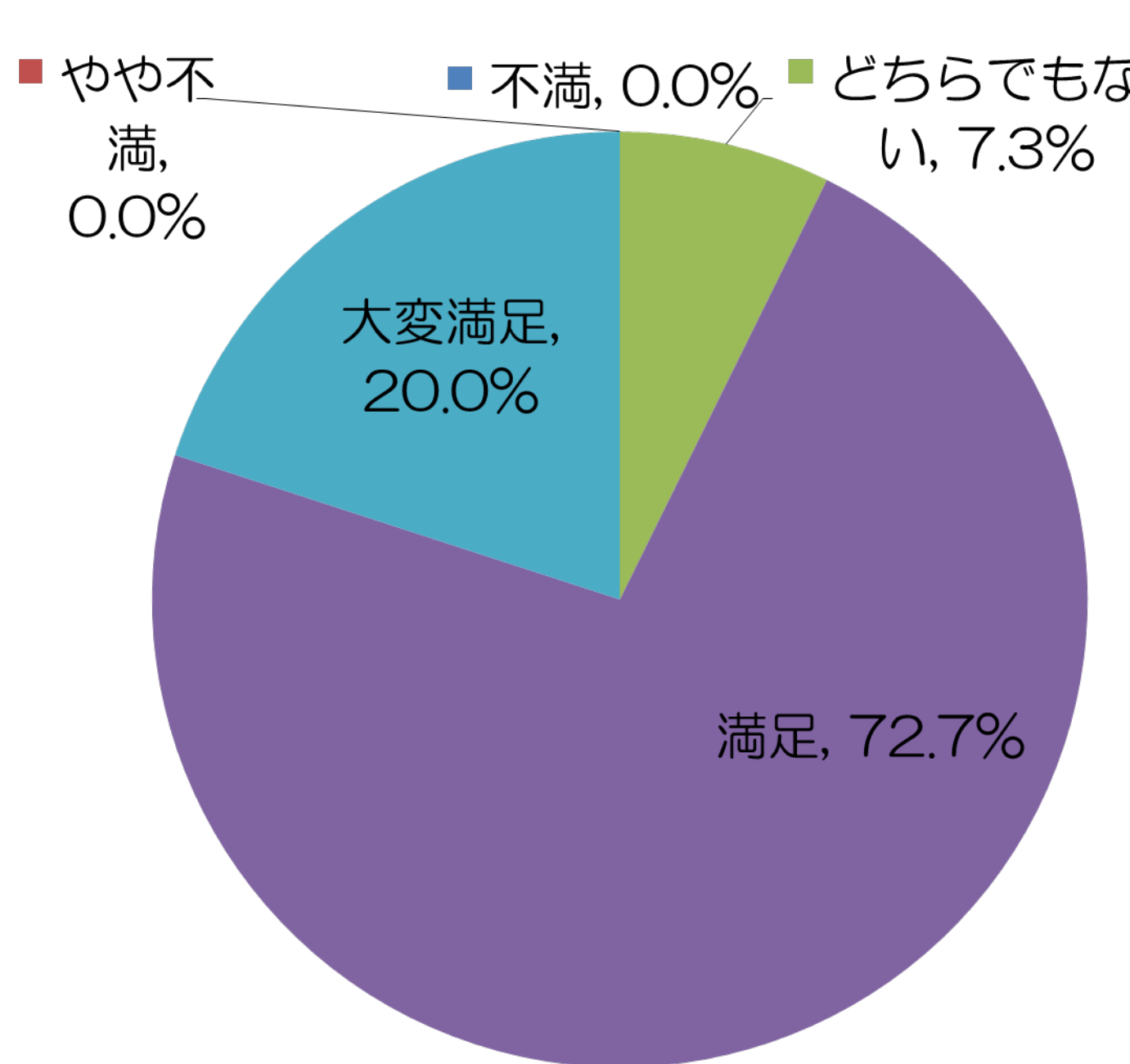
グループディスカッションの設定



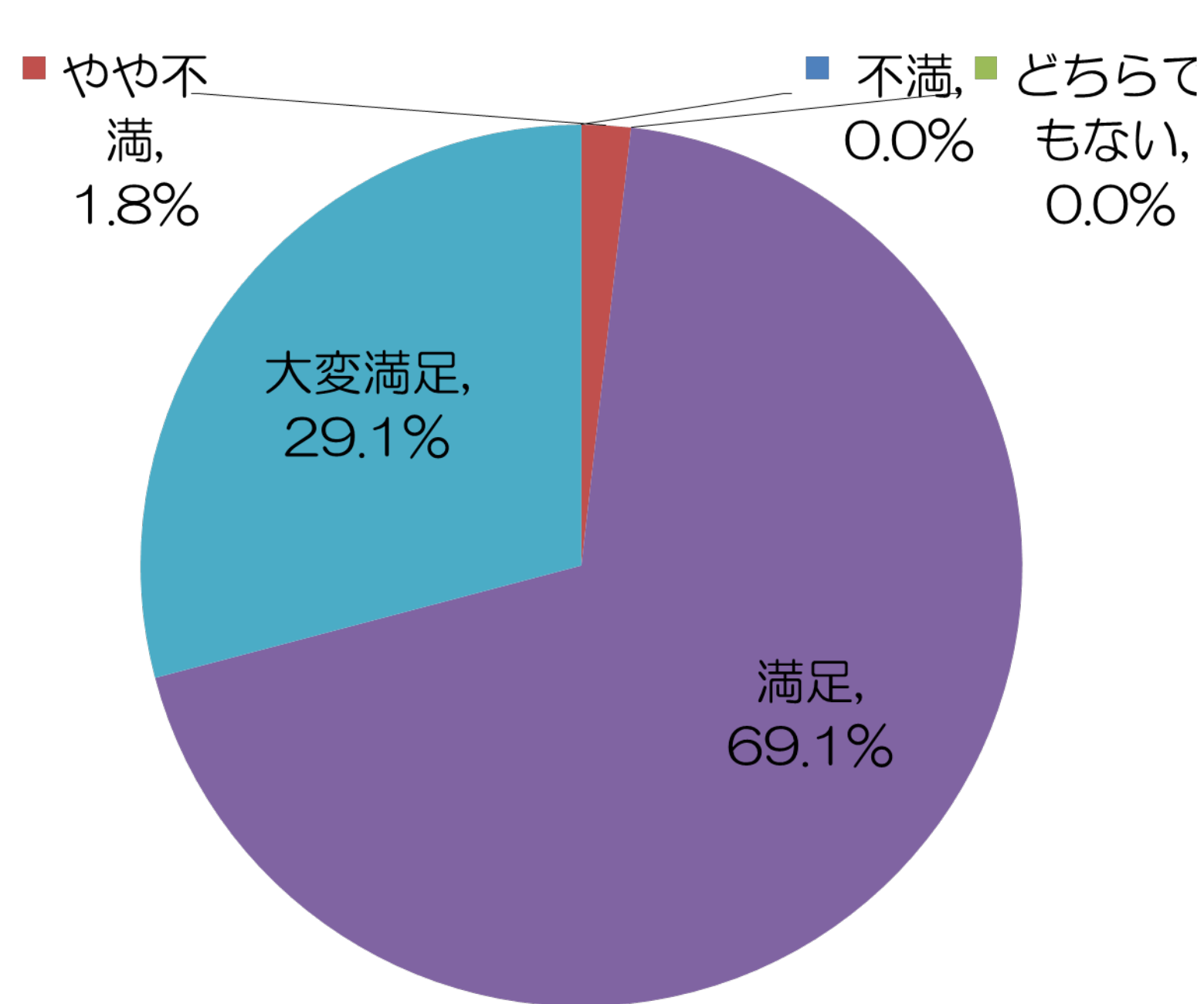
講義資料の評価



グループディスカッションの満足度



講習会全体の満足度



自由記述回答例 介護職と医療職が対等に協働関係を図る意義への言及

- ・「今後、何か困ったことがあれば聞いたり、相談できたりする人が増えて心強いと思います」
- ・「患者を取り巻く環境整備の中で、事業者のできることに、できないこと、役割等があり、その上で連絡、連携をとっていくことが大切だと感じた」

まとめ

- ・講義内容や講義資料、講習会のプログラム等で高い評価が得られた。
 - 医療と介護双方に関する知識を習得できた。
 - 他施設の介護職と経験を共有することができた。
 - ケアマネジャーや看護師との横の繋がりを効果的に図れた。
- ・地域住民への在宅医療の普及啓発につながることを意図し民生委員の参加を募ったことの意義
 - グループディスカッションでの討議に厚みを増した。
- ・今後の課題
 - 講習会での学びがどのように日常の業務に生きたのか検討することが求められる。
- ・講習会の準備や開催手順をまとめた「開催ハンドブック」、講義用スライド、アンケートを作成し、当院のホームページでも公開
 - 全国他地域で本企画を開催できる仕組みも提案した。
 - 同様の教育介入が全国の他地域でも開催されることを期待したい。
 - 平成24年度は他地域では計2回開催された。